

報道機関 各位

資料提供 平成29年12月19日
建設部 河川砂防課 砂防・防災班
担当者 副主幹 佐藤 鉄也
主査 大島 慎也
TEL 018-860-2518
美の国あきたネット掲載 有 無

秋田焼山の火山噴火被害軽減に向けて

秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会を開催します

「秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画」を策定するため、国・県の砂防部局と学識経験者、气象台等による、第5回検討委員会を開催します。

(別紙1.「説明資料」、別紙2.「委員名簿」、別紙3.「委員会の検討事項」参照)

1 開催日時

平成29年12月21日(木) 13:30～15:30

2 場所

秋田市にぎわい交流館AU2階展示ホール
秋田市中通一丁目4番1号

3 今回検討内容

- ・秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画(素案)について



秋田焼山 山頂付近

※本委員会は一般公開としますが、会場の都合により傍聴席に限りがありますので、先着順とさせていただきます。

※委員会終了後に質疑応答を行う予定です。

※共同主催者である国土交通省の問い合わせ先は、次のとおりです。

国土交通省 東北地方整備局 湯沢河川国道事務所

TEL 0183-73-3174 (代表)

技術副所長 齋藤 茂則 (内線204)

調査第一課長 木村 博英 (内線351)

説明資料

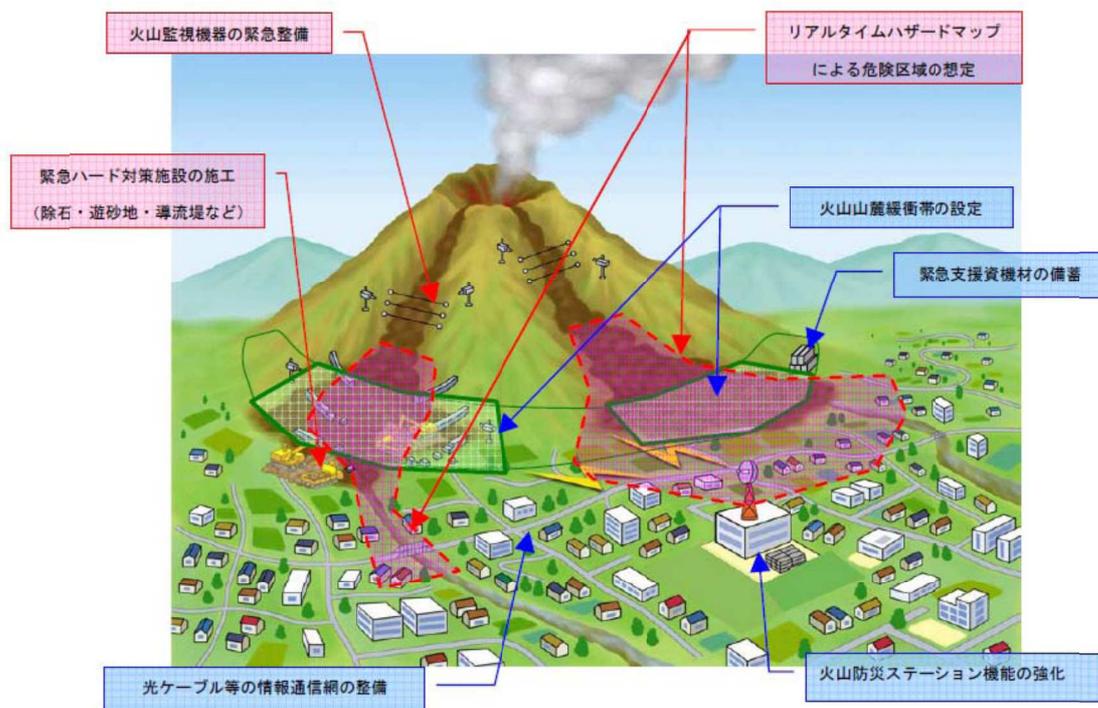
(秋田焼山について)

秋田焼山は、現在、噴火警戒レベル1となっていますが、有史以降噴火活動を繰り返している活火山です。1997年5月11日には、北東山麓の澄川温泉付近において地すべりに伴う水蒸気噴火が発生しており、さらに同年8月16日には山頂部においても水蒸気噴火が発生しています。

このようなことから、秋田焼山は、火山噴火に伴い発生する恐れのある土砂災害に対して、緊急対策を迅速かつ効果的に実施し、被害をできるだけ軽減（減災）することを目的とした「火山噴火緊急減災対策砂防計画」の策定対象火山の1つとなっています。

(火山噴火緊急減災対策砂防計画とは)

いっどこで起こるか予測が難しい火山噴火に伴い発生が想定される溶岩流、火山泥流、土石流等の土砂災害による被害を軽減するため、地方整備局及び都道府県の砂防部局が策定するハード・ソフト対策からなる緊急対応を定める計画。



※火山噴火緊急減災対策砂防計画策定ガイドライン（国土交通省砂防部）より引用

秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 委員名簿

※敬称略

	構成員（学識経験者）
委員 (50音順)	井良沢 道也（岩手大学 農学部 教授）
	大場 司（秋田大学 国際資源学部 教授）
	林 信太郎（秋田大学 教育文化学部 教授）
	檜垣 大助（弘前大学 農学生命科学部 教授）
	三浦 哲（東北大学 大学院 理学研究科 教授）

	構成員（専門機関、行政機関）
委員	国立研究開発法人土木研究所 火山土石流チーム 上席研究員
	気象庁 仙台管区气象台 気象防災部 火山防災情報調整官
	気象庁 秋田地方气象台 防災管理官
	鹿角市長
	仙北市長
	林野庁 東北森林管理局 秋田森林管理署長
	林野庁 東北森林管理局 米代東部森林管理署長
	国土交通省 東北地方整備局 河川部 広域水管理官
	国土交通省 東北地方整備局 湯沢河川国道事務所長
	国土交通省 東北地方整備局 玉川ダム管理所長
	秋田県 総務部 総合防災課長
	秋田県 建設部 河川砂防課長

事務局 国土交通省 東北地方整備局 湯沢河川国道事務所
秋田県 建設部 河川砂防課

委員会の検討事項

秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会では、「火山噴火緊急減災対策砂防計画策定ガイドライン（国土交通省砂防部）に基づき「火山噴火緊急減災対策砂防計画」を策定するため、平成 27 年度より、下記、検討を進めてきており、今回は第 5 回目の検討委員会となります。

【H27. 11. 26 第 1 回】

- ・ 計画策定の基本事項（現状の把握、噴火シナリオの作成）

【H28. 2. 29 第 2 回】

- ・ 計画策定の基本事項（噴火シナリオの作成）
- ・ 対策方針の設定（対象とするシナリオケースの抽出）

【H28. 9. 15 第 3 回】

- ・ 対策方針の設定（対策の前提条件の検討、対策方針の決定）

【H29. 3. 13 第 4 回】

- ・ 緊急時に実施する対策の検討（緊急ハード・ソフト対策）
- ・ 平常時からの準備事項の検討

【今回 第 5 回】

- ・ 緊急時に実施する対策の検討（緊急ハード・ソフト対策）
- ・ 平常時からの準備事項の検討
- ・ 火山噴火緊急減災対策砂防計画書（素案）について